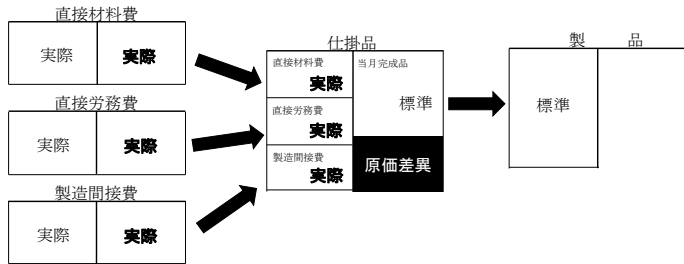


第142回 日商簿記検定試験 2級 -工業簿記- 解説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保证するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

第4問

パーシャル・プランの勘定記入方法は次のようになる。なお、本間は月初・月末仕掛品が存在しない。



問1 仕掛品勘定から製品勘定へ振り替える仕訳

仕掛品勘定から製品勘定へは、標準額によって振り替えられる。

(借) 製	品	6,120,000	(貸) 仕	掛	品	6,120,000
-------	---	-----------	-------	---	---	-----------

※1,500個(当月生産量)×4,080円/個(1個当たり標準原価)=6,120,000円

問2 仕掛品勘定から原価差異品勘定へ振り替える仕訳

各原価要素勘定から仕掛品勘定へは、実際額によって振り替えられ、仕掛品勘定は次のようになる。

仕掛品		仕掛品	
直接材料費(実際額)	729,600	完成品原価(標準額)	6,120,000
直接労務費(実際額)	1,812,000	原価差異(差額)	311,600
製造間接費(実際額)	3,890,000		
	6,431,600		6,431,600

※原価差異：6,431,600円(借方合計)－6,120,000円(原価差異を除く貸方合計)＝311,600円

原価差異の部分について仕訳を示すと、解答の通りとなる。

(借) 原	価	差	異	311,600	(貸) 仕	掛	品	311,600
-------	---	---	---	---------	-------	---	---	---------

問3 製造間接費総差異

a. 製造間接費標準配賦額：1,500個(当月生産量)×2,400円/個(1個当たり製造間接費標準原価)＝3,600,000円

b. 製造間接費総差異：3,600,000円(a)－3,890,000円(実際発生額)＝**△290,000円(不利差異)**

問4 製造間接費差異の分析

資料に基づき、次のように差異分析を行う。

(1) 予算差異

a. 予算許容額：2,500円/時間(変動費率)×920時間(実際直接作業時間)＋1,500,000円(固定費月間予算)＝3,800,000円

b. 予算差異：3,800,000円(a)－3,890,000円(実際発生額)＝△90,000円(不利差異)

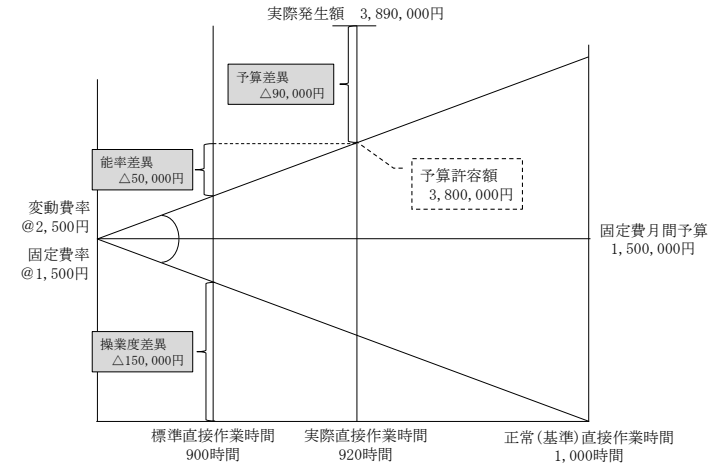
(2) 能率差異

{900時間(標準直接作業時間)－920時間(実際直接作業時間)}×2,500円/時間(変動費率)＝△50,000円(不利差異)

(3) 操業度差異

{900時間(実際直接作業時間)－1,000時間(正常直接作業時間)}×1,500円/時間(固定費率)＝△150,000円(不利差異)

これらをまとめると、次のようになる。



※ 固定費率：1,500,000円(固定費月間予算)÷1,000時間(正常直接作業時間)＝1,500円/時間

※ 変動費率：2,500,000円(変動費月間予算)÷1,000時間(正常直接作業時間)＝2,500円/時間

※ 標準直接作業時間：1,500個(当月生産量)×0.6時間(標準直接作業時間)＝900時間

注) 能率差異は、変動費のみから求めることに注意する。

第5問

1. 第1工程

(1) 原料Xの按分

30,000円	月初仕掛品	完了品	940,000円
	200個	4,600個	
970,000円	当月投入量	正常仕損品	→完成品負担
	4,800個	100個	
		月末仕掛品	
1,000,000円			1,000,000円

- ① 月末仕掛品原価：1,000,000円(借方合計額) ÷ {4,600個(完了品数量) + 100個(仕損数量) + 300個(月末仕掛品数量)} × 300個(月末仕掛品数量) = 60,000円
- ② 当月完了品原価：1,000,000円(借方合計額) - ① = 940,000円

(2) 加工費の按分

40,000円	月初仕掛品	完了品	1,880,000円
	100個	4,600個	
1,900,000円	当月加工量	正常仕損品	→完成品負担
	(貸借差)	100個	
	4,750個	月末仕掛品	
1,940,000円			1,940,000円

※数量は全て加工進捗度を考慮する。なお、仕損は終点発生のため、加工進捗度は100%とする。

- ① 月末仕掛品原価：1,940,000円(借方合計額) ÷ {4,600個(完了品数量) + 100個(仕損数量) + 150個(月末仕掛品数量)} × 150個(月末仕掛品数量) = 60,000円
- ② 当月完了品原価：1,940,000円(借方合計額) - ① = 1,880,000円

∴ 第1工程完了品原価：940,000円(原料X分) + 1,880,000円(加工費分) = 2,820,000円

2. 第2工程

(1) 前工程費の按分

300,000円	月初仕掛品	完成品	2,995,200円
	400個	4,800個	
2,820,000円	当月投入量	月末仕掛品	124,800円
	4,600個	200個	
3,120,000円			3,120,000円

- ① 月末仕掛品原価：3,120,000円(借方合計額) ÷ {4,800個(完成品数量) + 200個(月末仕掛品数量)} × 200個(月末仕掛品数量) = 124,800円
- ② 当月完成品原価：3,120,000円(借方合計額) - ① = 2,995,200円

(2) 原料Y(追加投入)の按分

原料Yは、始点で投入されているため、前工程費と同じ数値を用いて按分する。

40,000円	月初仕掛品	完成品	576,000円
	400個	4,800個	
560,000円	当月投入量	月末仕掛品	24,000円
	4,600個	200個	
600,000円			600,000円

- ① 月末仕掛品原価：600,000円(借方合計額) ÷ {4,800個(完成品数量) + 200個(月末仕掛品数量)} × 200個(月末仕掛品数量) = 24,000円
- ② 当月完成品原価：600,000円(借方合計額) - ① = 576,000円

(3) 加工費の按分

63,500円	月初仕掛品	完成品	1,152,000円
	200個	4,800個	
1,112,500円	当月加工量	月末仕掛品	24,000円
	(貸借差)	100個	
4,700個			
1,176,000円			1,176,000円

※数量は全て加工進捗度を考慮する。なお、仕損は終点発生のため、加工進捗度は100%とする。

- ① 月末仕掛品原価：1,176,000円(借方合計額) ÷ {4,800個(完成品数量) + 100個(月末仕掛品数量)} × 100個(月末仕掛品数量) = 24,000円
- ② 当月完成品原価：1,176,000円(借方合計額) - ① = 1,152,000円

∴ 第2工程完成品総合原価：

2,995,200円(前工程費分) + 576,000円(原料Y分) + 1,152,000円(加工費分) = **4,723,200円**